

ふれあい 雪谷

平成17年
さくら号



(石川台 渋谷 武次さんの作品)

母校の思い出 21 カゴメの校章に最敬礼

大田区立大森第六中学校。私は昭和27年の3回卒です。超大型受験台風と正面衝突そして突破といった3年間でした。元凶？は愛称「ポンチ」こと、そう、吉田義男校長先生です。感謝の言葉ありません。今も変わらぬカゴメの校章には最敬礼です。

3年生のとき、土の校庭で遊んでいると「おーい、又マモトー、早よう帰ってペンキョウセーイ！」朝礼台に立った「ガンジー」と山田先生がメガホンで大声一喝、大鷲と子兎の姿でこそ帰ったものでした。また思い出されるのが体操の「マンモス」こと加藤先生です。まずは洗足池一周、中には池に飛び込んで泥んこの生徒もいました。

我が六中は越境入学のメッカで城南各地はもちろん、墨田・杉並・中野各区、遠くは神奈川県三浦市から来る生徒もいました。それは著名な受験進学校だったからだと思います。

在学中一番恐ろしかった事は2学期と3学期のクラス編成替えでした。中間試験・期末試験・平常点の評価でランク分けされ、廊

下に墨字で上位順から氏名が張り出されます。鞭なき拷問かな？私などは何度挑戦しても、A組には入れず、今なお心に残ります。確かに受験は実力ですが、こんな方針は今は昔で、博物館入りとしたいものです。

当時の同期生は450余名、教師だけでも51名、在校生にいたっては1900余名とまさに池の中のオタマジャクシ状態で、記憶力の悪い私など顔と名前が一致せず、困り果てたものです。当時は教室が足りず北千束の赤松小学校に分教室がおかれたこともありました。

きらめく太陽に染まる緑の桜山、四季を映す洗足池、そして風と共に舞い昇りゆく校庭の土の薫……

あゝ、変わらぬままのわが命・大森六中よ、永遠なれ！！

(小池 沼本 光史)



「編集後記」

春は桜・ピカピカのランドセル・意欲に燃えた新社会人。新年度のスタートです。

区より、生まれかわる雪谷特別出張所の建築案がよせられました。また小池釣り堀跡の水質検査も始まる予定で、その後が楽しみです。

親しみやすい情報紙をめざして、心新たに頑張りますので、たくさんの方の原稿と表紙の絵など、みなさんのご協力の程お願いいたします。

(池の台 岡野 喜代子)

〔発行〕わがまち大田雪谷地区推進委員会
〔編集〕ふれあい雪谷編集委員会
〔連絡先〕雪谷特別出張所
大田区東雪谷四一三二二
電話 三三二九一五二
平成十七年四月一日
通巻第五十八号

ホームページ

<http://www.city.ota.tokyo.jp/nishi/yukigaya/index.htm>

サークル紹介 27 民謡教室

池の台会館では毎月三回金曜日・六時〜九時まで民謡のわけい古を行なっています。

先生は三味線・尺八・横笛など持って川崎からいらして下さいます。始めたての方には、聞きおぼえた唄を、または楽器も親切に教えて下さいます。

六月ごろはおさらい会・十月ごろには発表会がございます。日ごろの成果を発揮することが出来ます。

大田区内でも「千束麦打ち」・「大森甚句」など昔の労働唄など発掘民謡として、唄われています。日本の伝統文化の関心をお持ちの小学校では、和楽器を音楽の時間に、教えている所もあると耳にしたことがあります。



わけい古が終わってお茶の時間は世間話に花が咲いて、とても良い雰囲気です。勉強させて頂いてます。高い声をお腹から出すのが元気の源といわれています。ぜひ一度聞きにいらして下さい。お待ちしております。

(池の台 月居 ミヨ)

私の健康法 ⑩ 百歳を超えた母

おばあちゃんの健康法は？長寿になれるのは？とかよく聞かれています。特に健康法を実行していることはありません。

「まあ、好き嫌いなく何でも頂くからでしょう」と、とうに百歳を超えた母は答えます。

以前はお肉が好きでしたが、今は量も少なくなってきました。でも老人食の様な物は、あまり喜ばれません。

明治の女性ですから、気丈で弱音を吐かず、他人に甘えることなく、何とかして自分しようと頑張ります。

足を骨折してから歩くのに不自由ですが、昔からの生活習慣を頑固に守ろうとしています。昼間眠くてもベッドで寝ようとせず、椅子で居眠りをしていきます。

(東雪 K・A)



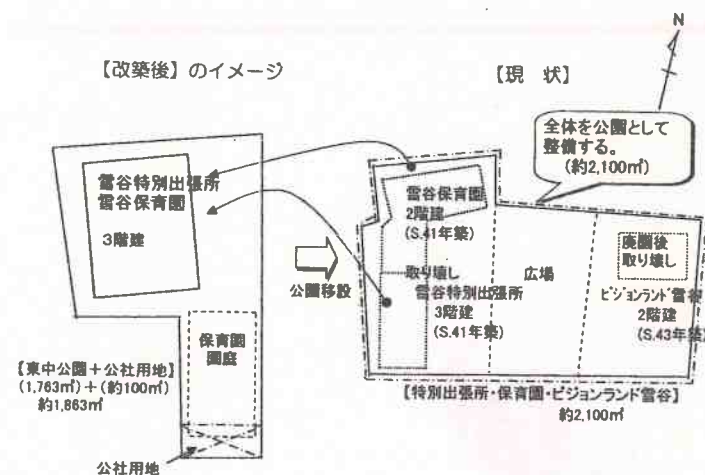
雪谷特別出張所の建て替え

雪谷特別出張所は、昭和41年に建築されましたが、建物の老朽化に伴い隣接する雪谷保育園と共に複合施設として建て替えを実施いたします。建て替え場所は、東中公園に決まりました。

建設予定地の東中公園は、バス通りに面しており、出張所の位置も今まで以上にわかりやすくなります。また、広い集会室も組み込まれる予定ですので、地域の拠点として、利便性が高まるものと考えます。

平成17年度に、東中公園の地盤調査をし、あわせて設計も年度内に完了する予定です。

なお、現雪谷特別出張所、雪谷保育園、ビジョンランド雪谷保育園の跡地は、新施設建設後に解体され公園として整備される計画でございます。



施設建設概略スケジュール(予定)

施設名	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
◇雪谷特別出張所		設計 地盤調査	工事	工事	開設 (4月予定)	
◇雪谷保育園		設計 地盤調査	工事	工事	開設 (4月予定)	
◇ビジョンランド 雪谷保育園				廃園		
◇公園 ・東中公園廃止 (1,763㎡)			廃止			
・公園新設 (約2,100㎡)				設計	建物 解体	開設

(雪谷特別出張所)

洗足池の桜

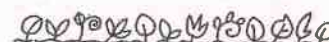
百歳の母に桜を見せに来し

桜の季節になりました。花見どきの洗足池はいつもの静けさとは全く異なる大変な混雑になります。人出の少ないある朝のこと百歳になられる母親を介助しながらお花見をしている夫婦に出会いました。母もその子夫婦もさぞ幸せに満たされたことでしょう。都内でも名高い洗足池の桜は、桜山と洗足池との山水の風景がかもしだす地の利に恵まれている故とも思えます。

この洗足池は昔々弘安5年9月18日(西暦1282年)日蓮上人が晩年身延山から池上に向われる途中のこと、丘と池のおりなす美しい景色に思わず馬を止め、旅装束を脱ぎて畔の松の木の枝に掛け池の水で手足を洗いしばし休息されたとか。このことが洗足池や袈裟懸松の名のおこりと伝えられています(現在の御松庵境内)。尚江戸時代の絵師広重の作品(江戸百景)の中に「千束の池袈裟懸けの松」があり、絵にしたい絶景であったから筆をとったのでしょう。

池畔は、勝海舟夫妻の墓、西郷隆盛留魂祠、弁天島、源義家・頼朝ゆかりの八幡神社、御松庵など史跡に富み、足をとどめてみると、万葉の桜の中に往古の歴史を偲ぶことができるのではないのでしょうか。

(池の台 R・F)



美しい環境づくり⑤

昨年夏、洗足池公園横におけるマンション建設の問題が起りました。地下水豊富なこの地域に地下深く掘削されることは、景観を損ねるばかりでなく、洗足池の水質など、環境が破壊される恐れがあると私たちは危機感を抱いたのです。

この問題で周辺住民だけではなく、緑豊かな洗足池を愛する大勢の方々の支持を得ることができました。見ず知らずの方からメールやお電話をいただき、またはお訪ねいただき署名をいただきました。しかし、今の条例では、住民に説明会を開いた事実のみで、建設が進められてしまうため、この種の環境保全の運動を困難にしてしまいます。幸いにも建設会社の理解を得ることで、マンション計画は白紙になりました。

私たちは今後同じような問題が起きないように、地区計画を策定中です。地区計画とは区役所の指導のもとに、住民主体で作るもので、私たちは、建築物の高さ制限や、風致地区の方針を再確認する内容です。

洗足池は、四季折々の美しい自然を楽しませてくれます。一度壊れた自然は、元には戻りません。これからも、大切に守っていきたいと思います。

(笹丸自治会 会員)

自治会リレー随筆

花の思い出

春になるといろいろな花が咲き始めます。道端のタンポポ、庭の隅で恥ずかしそうに咲くすみれ、みんな可愛らしい。

先日、小学校のクラス会のときに、私は記憶にないが友人が「お宅に遊びに行くとお母さんがいつもおみやげにお花を持たせて下さったのよ」と言った。

私の母は花が大好きな人だった。終戦後の焼跡にたくさんの花の種をまいたり、球根を植えていました。戦争で何もかも無くなってしまったのに季節を迎えると花だけは私達の心を癒してくれました。花の盛りごろには、道行く人に「どうぞお持ち下さい」と差し上げていたのを思い出します。



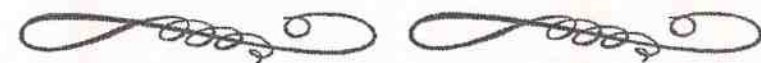
食べる物にも苦労していたのに、母はなんと心豊かな人だったのだと思う。特に印象深いのは、数種類のチューリップやダリア、それに真夏のひまわり。秋口になるとコスモス、背丈ほどになったコスモスの植込みの中に入ると姿が見えなくなるくらい立派だった。

近ごろ咲き乱れる花の中に自分をとじてみて見たいと感じるのは、幼いころの思い出が頭の中にあるのだと思う。そんな私は、花を植えて育てることを余りやっていないが、私の娘はなぜか

花が大好きで、毎日いつく慈しんで育てている。花をいじっているとストレスも解消されて心が癒されるし、心を込めて手入れすると必ずそれに答えてくれると言う。

昔のように広い庭ではないがサンデッキや庭で少しずつ季節の花が咲き始めにぎやかになります。

(東中 直井 穂枝)



俳句

飴色にうどん煮つまる桜冷え

(上池上 山田 菊枝)

店頭にお福さんおり桜餅

(上池上 太田 美恵子)

啓蟄やお堀の松の葉解けて

(上池上 海老澤 澄子)

